

めぐみイエス・キリスト教会

2026年2月1日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第793号」



2026年標題聖句

ヨハネの福音書14章1節～2節

《「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。私の父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、私は場所を備えに行くのです。」(新改訳第Ⅱ版)》

礼拝 毎週日曜日 午前10時～11時

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌282「見ゆるところによらず」p. 450

【交読文】 No.4 詩篇第18篇(抜粋) p. 881

【賛美Ⅱ】 新聖歌434「語り告げばや」 p. 700

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「キリスト賛歌」

【聖書朗読】 ルカの福音書12章8節～12節(新約p. 141)

【礼拝説教】 「人々の前で」

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書12章8節～12節)

12:8 「あなたがたに言います。誰でも人々の前で私を認めるなら、人の子もまた、神の御使いたちの前でその人を認めます。

12:9 しかし、人々の前で私を知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。

12:10 人の子を悪く言う者は誰でも赦されます。しかし、聖霊を冒瀆する者は赦されません。

12:11 また、人々があなたがたを、会堂や役人たち、権力者たちのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配しなくてよいのです。

12:12 言うべきことは、その時に聖霊が教えて下さるからです。」

●ポイント1.「シモン・ペテロへの預言とその成就」とは？

※マタイの福音書26章33節～35節前「ペテロへの預言」(新約p.57)

26:33 すると、ペテロがイエスに答えた。「たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度私を知らないと言います。」

26:35 ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」

※マタイの福音書26章74節～75節「大祭司邸の中庭で」(新約p.59)

26:74 するとペテロは、嘘ならのろわれてもよいと誓い始め、「そんな人は知らない」と言った。すると、すぐに鶏が鳴いた。

26:75 ペテロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度私を知らないと言います」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして、外に出て行って激しく泣いた。

●ポイント2. ユダヤ指導者全員が参加した最高法院において

※使徒の働き4章5節～8節前「ペテロとヨハネ」(新約p.238)

4:5 翌日、民の指導者たち、長老たち、律法学者たちは、エルサレムに集まった。

4:6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレクサンドロと、大祭司の一族もみな出席した。

4:7 彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか」と尋問した。

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。

●ポイント3. 「私たちのアイデンティティ」とは？

※ヨハネの福音書1章12節「神の子どもとなる特権」(新約p.175)

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

◎先週のメッセージ【多くの雀よりも】

《さて、ルカの福音書に戻ります。ここで、主イエスは初めて弟子たちのことを「友」と呼ばれました。私たちは、神様の友なのです。「からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。」

ここで、主イエスは、私たちが恐れなければならない存在、敬うべきお方が誰であるのかを教えてください。それは、「白い御座のさばき」において裁かれる父なる神様のことです。この時、主イエスは、裁判席ではなく、弁護側に立たれるに違いありません。そこで、主は、「行ないの書」を紐解かれ、次に「命の書」を開かれます。「命の書」には、間違いなく私たちクリスチャンの名前が書き記されているのです。

さて、そして次に主イエスは、雀のたとえを話されました。「五羽の雀が、二アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でも、神の御前で忘れられてはいません。」実は、これだけですと説明不足で、マタイの福音書における平行記事を見ますと、『「二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。」』となっています。ここでは、二羽の雀は一アサリオンで売られています。そうしますと四羽では二アサリオンになるはずですが、ルカでは五羽で二アサリオンなのです。つまり一羽おまけなのです。主は、そんな雀の一羽でも、神様の御前で忘れられてはいないと言われるのです。そして、「あなたがたは、多くの雀よりも価値があるのです」と言われたのです。これが、神様から見た私たち一人一人なのです。私たちは、愛されています。それだからこそ、主は私たちの身代わりとなって、十字架に掛けられ死んで下さったのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、2026年2月8日(日)午前10時から、通常通りです。